

# ちわい

2015  
お盆号 VOL.144  
浄土宗西山深草派宗務所  
総本山 誓願寺

## ◆ 目次 ◆

- 浄土宗西山深草派布教師会
  - 賢問子行状記 ⑭
  - 迷子みちしるべ式
  - お釈迦さまの十大弟子 4
  - インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 ⑳
  - 突撃レポート御忌大会
  - 何でも〴〵お寺探偵団 Vol. 42
- 清光山 大海寺 浄珠院

◆ 総本山誓願寺 一言観音さんイラスト 中川学 ◆





小島雅道師

このホームページで、きつと忘れていたこと、気づかなかつたこと、本当の真心に出会うことが出来るでしょう。

このホームページ (<http://www.fukakusa-fukyou.net/>)で、きつと忘れていたこと、気づかなかつたこと、本当の真心に出会うことが出来るでしょう。

苦しみが楽しみとなり、悲しみが喜びとなるには、心を転換する必要がある。それは、気づくこと、目覚めることです。

自分中心に物事を考えてしまう私たちが。法然上人が、「ただ一向に念仏すべし」と仰せられたのは、感謝を忘れがちな私たちに、目には見えない真心に気づくため、日頃から感謝の心を育てるために、お説き下さったのです。

### 布教師会理事長

# 浄土宗西山深草派布教師会のホームページの紹介です

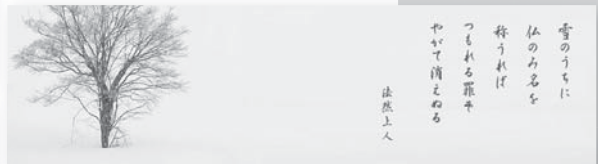
お説教(法話/説法)を音声で  
ご紹介をしております。

☪ インターネット法話

☪ 季節の法話

☪ 若手布教師の実演

(<http://www.fukakusa-fukyou.net/>)



## 賢問子行状記

14

総本山誓願寺 執事 小島英裕

## 第九話

## 「如来、御利益」(後編)

誓願寺の阿弥陀さまは花車に乗せられ、

「花車には三本の縄を付け、人々に引いてもらい仏縁を結ぶように」

との命令で、多くの人々が縄に取り付き、念仏の声と共に花車を引いています。そして今日は、京都、木津の里に住んでいる念仏信者の母親とその息子夫婦が住んでいる街道を通る日です。

「母に病気がなければ、一番に阿弥陀さまをお見送りできるのに。長い間、病気の体で残念だ」

と夫婦が話していると、母は

「見送りに行けない状況にはなったが、せめてこの里に阿弥陀さまがおられる

間に往生したい」

と合掌しました。

「そろそろお迎えが来るかもしれないので、今日目の前を阿弥陀さまの行列が通る時、私を表へ連れ出して花車を拝ませて欲しい」

と母は念仏を絶やしませんでした。阿弥陀さまの行列は早くもすぐ側まで近付き、車の轟く音が聞こえ、人々の念仏が聞こえます。夫婦は、

「今だ」

と、病気の母を座蒲団に座らせ、二人で母を担いで表の入口に下ろしました。母は気分爽やかに合掌して待っています。そこに花車が目の前に来ました。

「これは阿弥陀さまが来迎してくださったのだ！」

と母は手を合わせ、大きな声で念仏を

十返称えながらうつむき、頭を下げました。いつもの礼拝と違って、どうしたことでしょう。花車が止まりました。そして、引いても引いても花車が動きません。これはどうしたことかと母を起こしてみれば、微笑みながら、息絶えています。夫婦は驚き、母を抱きかかえ、

「こんなに早く往生してしまったのですか！」

と、声を上げて泣きました。人々も山が崩れるように念仏を称えました。近所の人々は日頃より、

「仏婆」

と呼んでいましたが、

「相変わらずの幸せ者」

と誉め称えました。それから花車は軽くなり、新しい都に向かって急ぎました。世の人々は名付けて、

「車止めの老婆」

と言うようになりました。(つづく)



# 京都 本山誓願寺

式

## 迷子みちるべ

ひととき…ひとこと…



イラスト 中川 学



ひとこと観音さま  
イラスト 中川 学

### 本山納骨のご案内

#### ●永代納骨(20万円)

・本山ご本尊の須弥壇下にある納骨堂へ永久に安置致します。ご命日にはお名前を読み上げご供養致します。お骨にご対面していただくことが出来ます。

#### ●須弥壇納骨(10万円)

・本山ご本尊の須弥壇下にある納骨堂へ二十年間安置致します。ご命日にはお名前を読み上げご供養致します。お骨にご対面していただくことが出来ます。永代納骨への切替も出来ます。

#### ●普通納骨(5万円)

・本山で法要を修行した後、合同で京都深草の真宗院にある納骨堂にお納め致します。永代納骨や須弥壇納骨への変更は出来ません。

※詳細、また納骨をご希望の方は、総本山誓願寺まで直接お問い合わせ下さい。

ひととき…

誓願寺は飛鳥時代に開かれて以来、都が平城、長岡、平安と遷されるときも、常にその伽藍は人々に近い存在でした。現在、京都の街のまん中、新京極に立つ総本山誓願寺ですが、山門をくぐり、一步本堂に入ると世間の雑踏から離れることが出来ます。本堂には、京洛六阿弥陀の随一といわれる本尊である阿弥陀如来像(丈約五メートル)をおまつりしています。その大きな阿弥陀さまの前で、心安らぐひとときをお過ごし下さい。

ひとこと…

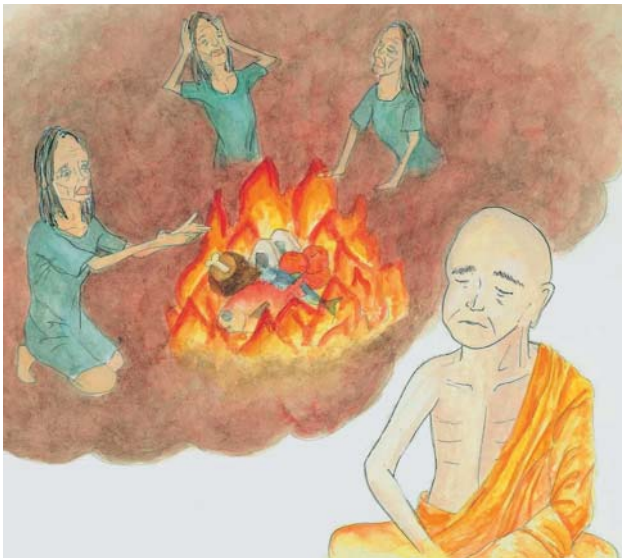
本堂右手には、弘法大師空海の御作と伝えられる十一面観世音菩薩様さまがおいで

になります。ひとことで願いを叶えて下さることから「ひとこと観音」として親しまれ、古来からあつく信仰されています。

総本山誓願寺では今年五月より定期的に、気軽に写経を体験頂ける時間をもうけています。まず、僧侶とみなさんが一緒にひとこと観音さまの前で般若心経をよみ、その後、写経体験をして頂いています。字の上手下手ではなく写経を通じて自分と向き合い、心静かな時間を過ごしていただくことが目的です。

世間の喧嘩から離れ、ご自身と向き合う。そんなひとときを総本山誓願寺本堂で過ごしてみませんか？

納骨、読経回向、霊場の御朱印など、みなさまに総本山誓願寺へお参りいただけることを、心よりお待ちしております。



神通力で母の姿を見る目連尊者

お盆が近付くと日本各地で「施餓鬼法要」が勤められます。この施餓鬼法要の由来は目連尊者にあると言われています。

神通第一の目連尊者その2

お釈迦さまのご生涯  
外伝

# お釈迦さまの十大弟子 4

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

目連尊者は、神通力を使い亡き母がどこに生まれ変わったかを探すと、餓鬼界で母を見つけました。すると、肉は削げ落ちガリガリに痩せ、目はギョロリと見開き、口は大きく、飢えと渴きに苦しむ餓鬼の姿となっていたのです。目連尊者は涙を流し、神通力を使って母の前に、鉢に山盛りのご飯を差し出しました。母は、「ご飯だ、ご飯だ、腹が減ってしかたない」と鉢のご飯を食べようとしました。すると、ご飯の中から炎が出て来たのです。しかし、腹を空かせた母は食べたくて仕方ありません。炎が出ているご飯を口に入れると、「熱い、熱い、熱い」とご飯が食べられません。食べたくても食べられない苦しみをずっと受け続けました。

その姿を不憫に思った目連尊者はお

釈迦さまにすがりました。

「わが母は餓鬼界に堕ち、飢えと渴きの苦しみを受け続けております。神通力を使って母にご飯を届けても炎が出て食べる事ができません。私はいったいどうしたらよろしいのでしょうか。母が不憫でなりません」とオイオイ泣きながら言いました。

「いくら神通力を使ったとは言え、餓鬼の苦しみからは救われぬ。これから安居中の7月15日に、自らの罪を懺悔するがよい。そして、弟子たちに山海の珍味を供養するのだ。弟子たちは喜んで供養を受けるだろう。その喜びが功德となって地獄、餓鬼、畜生に生れた人々の救いとなるのである」とお釈迦さまは仰いました。

7月15日、目連尊者はお釈迦さまの言われたようにしました。すると母は餓鬼界から救われ天界に生まれ変わったのです。この話から始まったのが施餓鬼法要だと言われております。また母が救われたことを涙を流し、喜びのあまり目連尊者は踊り出しました。周りにいた弟子たちも一緒に踊りました。これが「盆踊り」の始まりだと言われています。(つづく)





東龍寺住職 岩瀬賢良

やはりここは

パウリースポット

ブツダガヤに着いたのが遅い時間だったので、荷物を部屋に置くとすぐ僕たち四人は夕食をとり外へ出た。表通りは街灯もなく暗かったので、ペンライトで照らしながら、マハーボーディ寺院（大菩提寺）の方なら開いている店があることを願って歩いた。殆どの店は閉まっていたが、幸いまだ営業している店があったのでそこに飛び込み、ささやかな夕食をとるとすぐにホテルへ帰った。

翌二月二十八日（木）、静かで爽やかな朝を迎え、身支度を整えると、宿泊したホテル・アマルの向かい側にある茶店でチャイを飲みながら、その日の予定を立てた。その後ホテルのチェックアウトをし、マハーボーディ寺院に向かった。寺院の近くには露店が並んでいたもので、あちらこちら土産物の目星をつけたり、利子用のゴム草履も買ったたり

してマハーボーディ寺院に近づいて行った。

そうこうしていると、身なりの良い日本語の流暢な青年が僕たちに声をかけてきた。過去二回、この地に来た時には、あまり品が良いとは言いがたいが、今回そのような連中には出くわさず、第一印象でハイカーストラらしき好青年に声を掛けられたのである。彼は寺院のすぐそばで土産物屋をやっているからと僕たちを案内し、婚約者だという日本の女性を紹介してくれた。彼女は岐阜羽島からちようど彼に会いに来ていて、五月に結婚して岐阜羽島で暮らすということだった。ついでに僕たちのバッグを預かってもらい、彼とその友達も加わって案内役をしてくれることになった。

僕たちは先ず裸足になって寺院に入り（仏教・ヒンドゥー教を問わず、寺院の中は必ず裸足で入るのが規則）、お釈迦さまの座像の前で丁寧に礼拝をした後、右邊三匝

（相手の周りを右回りに三周する、最高に敬意を表す挨拶）し、仏陀釈尊の偉業を改めて讃えた。寺院の裏側（西）の、釈尊が覺りを開かれた菩提樹の場所に行くと、他の国の僧侶が同国の信者の人たちに説法をしている最中だった。お釈迦さまが覺りを開かれた場所の柵から、その人たちが出てくると、入れ替わりに僕たちがその中に入り、金剛宝座（釈尊が覺りを開かれた場所を、後世に石で長方形に造った台座。菩提樹とマハーボーディ寺院の間に、寺院にくっついてできている）を囲んで座り説法を始めた。



菩提樹下、金剛宝座の横での説法（ブツダガヤ）

突撃レポート!

御忌大会

去る4月23日(木)から25日(土)までの3日間、総本山誓願寺にて「御忌大会」が厳修されました。参拝者の方にインタビューしてみました!

70代女性

久しぶりに本山の御忌さまにお参りできました。ありがとうございます。

50代女性

本日は父親の納骨に来ました。ありがたいお経をあげて頂き、嬉しかったです。

40代男性

沢山のお坊さんが、綺麗な衣装を着て歩いているのが印象的でした。これだけいけば迫力がありますね。



おもな行事予定

- 八月
  - 十五日(土) 六阿弥陀功德日
  - 十六日(日) 精霊送り・盆施餓鬼
  - 二十日(木)～二十一日(金) 少年少女参拝団
- 九月
  - 十八日(金) 開山歴代忌六阿弥陀功德日
  - 二十日(日)～二十六日(土) 秋彼岸
- 十月
  - 八日(木) 六阿弥陀功德日
  - 十日(土) 数珠供養会
  - 十二日(月祝) 策伝忌
- 十月
  - 二十日(金) 西山忌
  - 二十四日(火) 六阿弥陀功德日
- 十一月
  - 二日(火) 仏名会
  - 八日(火) 成道会
  - 二十四日(木) お身拭い式六阿弥陀功德日
  - 三十一日(木) 除夜の鐘

クイズコーナー

【問題】

インドドタバタ夫婦道中記の中で、お釈迦さまが覺りを開かれた場所の後世台座を造りました。その名前を漢字四文字でお答え下さい。

○○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご本人にご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、浄珠院さまより腕輪念珠を3名さま、経本念珠入れを3名さま、本山謹製線香を5名さま、合計11名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】 〒444-0314 愛知県西尾市下矢田町郷二

養寿寺内 ちかい編集係

【締切】 九月三十日

(消印有効)

答え ○○○○  
 郵便番号  
 住所  
 氏名  
 電話番号  
 菩提寺(だんな寺)  
 感想・質問等

ちかい 第144号

発行日 平成二十七年七月五日  
発行所 浄土宗西山深草派

総本山誓願寺  
京都市中京区新京極桜之町四五三番地  
電話 (075) 221-0958  
FAX (075) 221-2019  
E-mail info@fukakusa.or.jp  
URL http://www.fukakusa.or.jp/



何でも

# お寺探偵団



浄珠院  
じょうしゅいん

Vol.42



profile

ひら い りゅう じょう

**平井隆盛師** (浄珠院 第30世) 昭和27年生まれ、62歳

先代住職の二男として生まれ、会社勤務を経て、平成元年先代住職の体調不良により寺に戻り、平成4年住職拝命。趣味は読書。現在、当派の情報デジタル化推進室室長。

今回は愛知県岡崎市にある「清光山 大海寺 浄珠院」を訪ねました。

Q1

お寺の歴史を教えてください。

当寺は、慈覚大師が聖徳太子直作の孝養像を安置して開かれた大海寺を、教然良頓上人(松平二代泰親長男)が後花園天皇に奉請し、砂金と斎田を賜り、浄珠院として開山されたお寺です。その後起こった一向一揆では、徳川家康公が当寺に本陣を構えられ、大久保一統がこれを守護し、和睦の際には当寺の聖徳太子の尊像に神文誓書を交わし、誰も断罪されることなく、無血で終わったと言われています。しかし、田中吉政が岡崎城主になると、当寺の寺領は没収の上、仏殿その他は破却され、矢作川の改修の用材にされてしまいます。後に、伊奈備前守、徳川家康

公より寺領を賜り、岡崎藩主水野忠善公の寄進で日本堂が造られました。今の本堂は明治元年から10年ほどかかって造られるなど、明治以降伽藍が整備されました。戦後寺領を失い荒廃するなど、時代に翻弄されたお寺ですが、現在では墓地を整備して、少しずつ復興しているところです。

Q2

お寺の宝物は何ですか？

聖徳太子がご自身で造られた孝養像です。永禄6年(1590)の一向一揆の際には、この尊像に一向宗門徒一同が和睦を誓い、徳川家康公はその後武運を開かれました。この尊像は岡崎城主田中吉政の時に、劫火に晒され、後に修復されました。徳川家康公が天下を取られた後には、この尊像を祀るお堂を開運殿と呼び信仰されました。

もう一つは、「法然上人絵伝」6幅(岡崎市指定文化財)です。南北朝から室町前期の絵伝で、元は一向宗の然るべき寺院にあり、一向一揆の後に、徳川家康公より賜りました。

Q3

お坊さんとしての心がけは？

最近、時代の変化があまりにも激しくて、お寺に来られる方の気持ちが分かりにくくなってきています。しかし独善にならないように、少しでも心に寄り添って、当寺と縁を結んで頂ける方が1人でも多く出来るよう、心がけています。

Q4

「ちかい」読者に何か頂けませんか？

腕輪念珠を3名さま、経本念珠入れを3名さまに差し上げます。

【交通】

JR「岡崎」駅より徒歩10分

【主な行事】

2月第1日曜 善光寺七草会

4月第1日曜 御忌

(聖徳太子忌・開山忌)

6月第1日曜 墓地総廻向

8月第1日曜 盆施餓鬼

12月31日 除夜会

【お問い合わせ】

浄珠院

〒444-0201

愛知県岡崎市上和田町字北屋敷55番地

TEL 0564-52-5253

FAX 0564-51-7764

ホームページ

<http://www.zyousyuin.org/>



本堂



開運殿



法然上人絵伝



聖徳太子像